

歴史的愛本^{はね} 橋の復元化による宇奈月地域の活性化調査

金沢工業大学大学院土木工学専攻 ○太田昌宏 金沢工業大学工学部 正会員 本田秀行

1.はじめに 愛本橋は我が国最大規模の刎橋として知られていた。愛本橋は富山県宇奈月町の黒部川に江戸時代初期から明治20年まで架設されていて、刎木、井桁、吊桁など独特な構造形式で愛本橋の橋長は61.4mである。

橋梁工学上、歴史的木製刎橋としての三大奇橋とは岩国の錦帯橋、甲斐の猿橋、越中の愛本橋または木曾の棧と言われている。岩国の錦帯橋、甲斐の猿橋の二橋は、現在でも当時の木橋の姿を今に伝えて地域文化の活性化に貢献しているが、越中の愛本橋は、記録のみで昔の面影を見ることはできない。それは、刎橋の維持、管理には莫大な経費がかかるため、明治時代になり加賀藩の保護がなくなると放置され、明治20年の大洪水で流失した。以来、材料の調達、維持管理費が高額になることから、刎橋は復元されることなく昭和47年にバスケットハンドル式ニールセンローゼ桁鋼橋が架けられ、現在に至っている。

本研究は、この愛本橋が架設された場合の宇奈月町の活性化による影響を推定することを目的としている。そのために、宇奈月町の現状を調査し、活性化による観光客数などの影響を推定する。また、愛本橋とともに三大奇橋といわれる猿橋、錦帯橋のある大月市、岩国市の現状と比較、調査することにより宇奈月地域の活性化を推定する。

2.宇奈月の現状 図-1のように宇奈月町の人口は約7000人で、年々減少傾向にあり、また高齢化の傾向もある。これは、進学や就職、結婚等による県外、近接市町村転出が大きな要因になっている。愛本橋架設による人口増はないが、観光客の増加により、町が賑わい活性化されと考えられる。

産業別人口については、第3次産業従事者が最も多く、他には、建設業や製造業が多い。これは、観光が町の重要な収入源であることを表している。愛本橋が架設された場合、サービス業はもちろん、建設業、製造業なども活性化されると思われる。

宇奈月町の観光客は、図-2のように年間120～140万人程で、図-3のように宇奈月温泉と黒部峡谷鉄道が大多数をしめる。宇奈月温泉と峡谷鉄道は、観光目的としてセットになっており、両方に行く観光客が多い。他の観光地であるビール館やセレネ美術館は、近年建てられある程度の観光客を集めている。

宇奈月町の観光客の特色として宿泊客が多いということが挙げられる。観光地としてはとても有利な点であり、新たに観光客を集めることによって、より大きな経済効果を見込めるものと思われる。観光客の流れとして、峡谷鉄道から宇奈月温泉に行き、立山に行くかあるいは反対のルートが一般的である。

愛本橋を架設した場合、このルートから近距離にあるためこのルートに加えることは可能であるし、橋に興味をもつ人々が、橋を見るついでにこのルートで観光するという、後述の猿橋や錦帯橋のようなパターンもあるので、減少傾向にある観光客を増加できるのではないかと考えられる。また、宇奈月地域は、第3次産業従事者が最も多いので、観光客が増えることにより町全体の活性化につながるのではないかと考えられる。

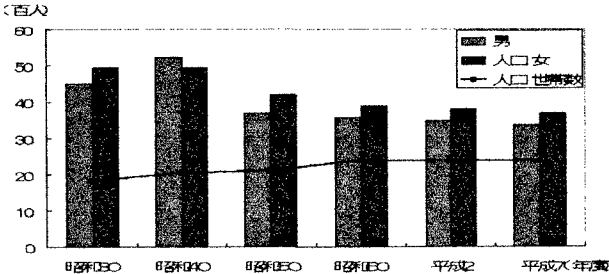


図-1 宇奈月町の人口推移

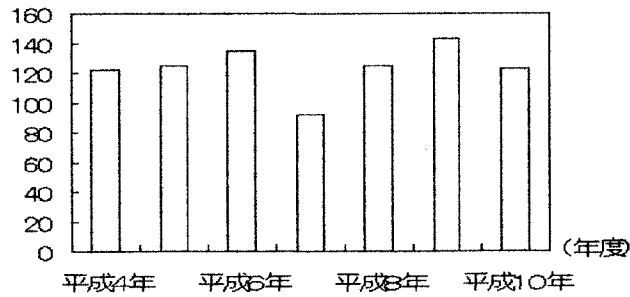


図-2 宇奈月町の観光客総数

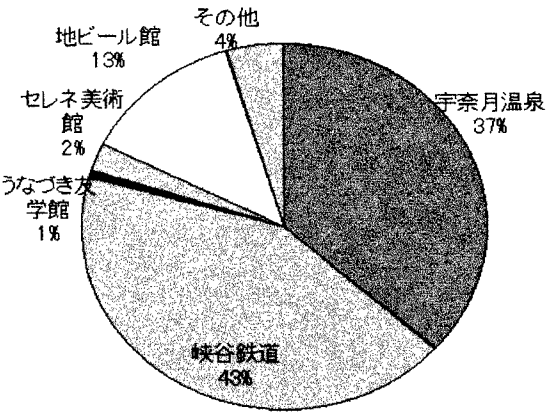


図-3 宇奈月町の観光客の割合(平成10年度)

3. 大月市との比較 愛本橋とともに三大奇橋といわれている猿橋、錦帯橋のある大月市、岩国市を調査し宇奈月町と比較することで、愛本橋架設時の活性化の影響を予測するための基礎資料とする。

図-4に示すように、人口は3万5千人程で年々減少傾向にある。この点は宇奈月町と同じである。産業に関しては、製造業が最も多く次にサービス業が多く宇奈月町とは違う傾向が見られる。

観光客については、図-5に示すように年間10万人程度で宇奈月町の約1/10である。また、大月市には富士山を眺めることのできる山が多く、ハイキングを楽しむことができる。そのためハイキングを目的として訪れる観光客がほとんどである。その中でも、ハイキングと合わせて日本三大奇橋の猿橋を見物することができる猿橋町を訪れる観光客がたくさんおり、大月市の観光客の約半数を占める。

まず、宇奈月町と大月市との地域性の違いに関して、宇奈月町には宇奈月温泉や峡谷鉄道など数多くの観光スポットがある。宇奈月町が観光地であるのに対し、大月市は猿橋の他に岩殿山などの登山コースがあるが、全体的に観光客は少なく、市全体を見ても製造業が最も多く観光地とは言えない。

次に観光客に関して、最も大きな違いは、宇奈月町に来る観光客のほとんどは宿泊していくが、大月市の観光客は日帰りである。これは、宇奈月町には、温泉や鉄道などがあるが、猿橋は甲府などの都市に行くついでに見るという観光客がほとんどであることに起因している。

4. 岩国市との比較 岩国市に訪れる観光客は年間250万人程で、宇奈月地域の観光客の約2倍である。しかし、年々減少傾向にある。この中で岩国市の観光スポットのメインといえる、錦帯橋の渡橋者は、図-6のように70万～80万人で全体の観光客の3割であることが分かる。平成6年と9年に観光客が増加しているが、これは、テレビCMやドラマの効果とによる影響と考えられる。

岩国市と宇奈月町との違いについて、大月市と同様、岩国市の観光客は日帰りが多い。これは、岩国市は、観光施設が集中しており、短時間でまわることができることと、宮島、萩方面観光の通り道となっているためである。

5. まとめ 宇奈月町と大月市、岩国市とを比較してみると、岩国市の観光客が最も多いが、宇奈月町は温泉や旅館が多く宿泊可能人員も一番多い。それにより、宿泊客も多くなり観光地としては最も有利であると言える。この3つの地域の観光客は減少傾向だが、宇奈月町の観光客の減少が最も小さい。これは、図-6に示すように近年オープンしたビール館やセレネ美術館の影響が大きいと考えられる。

次に橋の集客力を考えてみると、大月市での猿橋の観光客の割合は全体の5割であり、岩国市では、錦帯橋の観光客の割合は全体の3割である。これらの地域は橋が観光のメインとなっており、同じ三大奇橋である愛本橋も多くの観光客を集めることができると考えられる。なお、本研究では調査で得たデータを統計分析し、重回帰分析による予測モデルも検討しており、当日、それらの内容を報告したい。

最後に本研究にご協力をいただいた宇奈月町、大月市、岩国市などの関係者に感謝を表します。

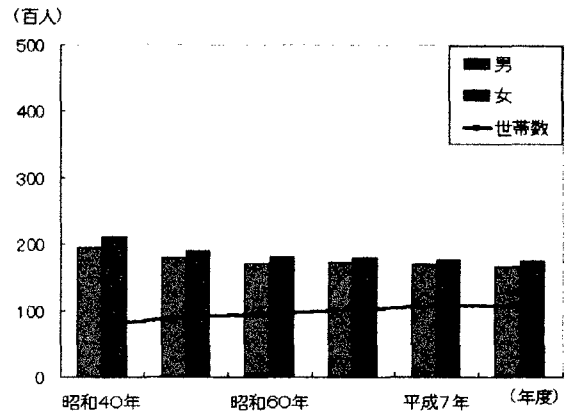


図-4 大月市の人口推移

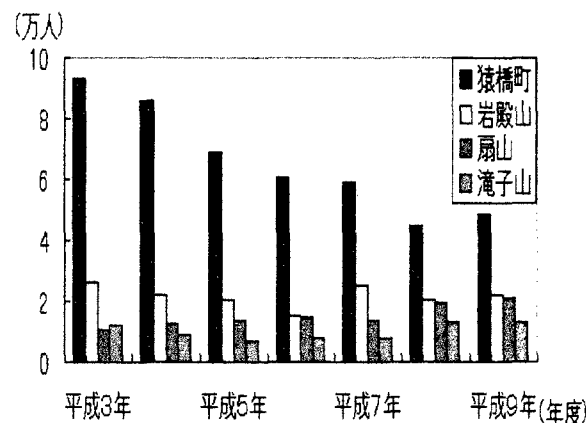


図-5 大月市の観光客数

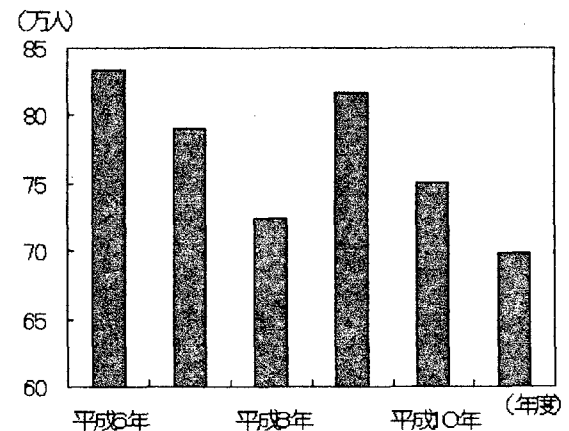


図-6 錦帯橋の観光客